

＜総括＞	出題数	現代文 1 題・古文 1 題・漢文 1 題	試験時間 105 分
人間の感じる 2 種類の「むなしさ」を述べたうえで、SNS 時代の現代における「むなしさ」について論じた文章からの出題。内容に関わる絵画が図 1・2 として掲載された。昨年と比べ文章量は大きく減少し、内容も比較的読みやすいものだった。設問は、昨年同様、漢字の読み書き、記述問題 4 問、内容合致問題が出題された。漢字は例年より 2 つ減って計 8 つであった。また、接続語の空欄補充問題が出題された。記述問題は昨年より記述量がやや増加した。全体としての難易度は昨年と同様である。			

＜本文分析＞

大問番号	□
出典 (作者)	『「むなしさ」の味わい方』（きたやまおさむ）
頻出度合 ・的中等	普通
分量 前年比較	分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 昨年は 5303 字、今年は 4128 字で 1175 字減少
難易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
□	評論	問一	漢字の読み書き	標準	特に難しいものはない。
		問二	客観	やや易	空欄の前後の文脈を踏まえればよい。
		問三	記述	標準	傍線部の 1 つ後の段落と、傍線部の 2 つ後の段落をそれぞれまとめればよい。
		問四	記述	標準	傍線部の 3 つ後の段落と、傍線部の 4 つ後の段落をまとめればよい。
		問五	記述	標準	設問の意図がややつかみづらい。
		問六	記述	やや難	設問の要求に合うように解答をまとめるのがやや難しい。
		問七	客観	標準	「エ」の選択肢がやや紛らわしい。

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題集や過去問を利用して、評論に触れて読解力を養うとともに、記述問題の練習を十分に積んでおくこと。
漢字の読み書きについても対策を怠らないようにしておくこと。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部（前期） 3 / 6

<総括>

出題数	現代文 1 題・古文 1 題・漢文 1 題	試験時間 105 分
南北朝時代の歴史物語『増鏡』からの出題であった。歴史物語の出題は稀である。文章量は、昨年と比べてかなり増加したが、本文の内容は読み取りやすいように思われる。ただ、現代語訳の問題は、何を、どのように補うべきか、判断に悩んだ受験生も多かったと思われる。設問は、言葉の補いが必要な現代語訳が 4 箇所、そのうち 1 箇所は和歌であった。説明問題は、昨年は出題されなかったが、今年は和歌にからんだ説明として 1 問出題された。また、文法問題も今年は出題された。文学史は、昨年に続き出題された。		

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『増鏡』(作者未詳)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 昨年は 693 字、今年は 1230 字で 537 字増加。
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	歴史物語	問一	記述	標準	品詞分解の問題。動詞、助動詞、助詞を文法的に説明する。
		問二	記述	標準	現代語訳の問題が 3 問。3 問とも重要単語(敬語など)、助動詞、助詞などの正確な訳のほか、人物や内容の補い、指示内容の具体化などに気を付ける。
		問三	記述	やや難	和歌の現代語訳の問題。「はつ霜」の「はつ」に「初」と「死ぬ」を意味する「果つ」が掛けられていることに気を付ける。
		問四	記述	標準	和歌についての批評の説明問題。(B) の和歌と二重傍線部の直前部「なほも思ふ心のあるなんめり」に注意して説明する。
		問五	記述	やや易	文学史の空欄補充の問題。歴史物語の作品を答える。

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要古語・文法の知識を基礎とした現代語訳の力をつけることが、大切である。その際、逐語訳だけでなく、主体の補いなどに注意を払い、わかりやすい現代語訳になるよう意識することが必要である。また、和歌に関する問題は頻出である。現代語訳、心情や具体的内容を把握する練習に加えて、和歌修辞や比喻表現の理解も深めておきたい。要約・説明問題については、記述量も多い。実際に書いてまとめる練習を積んでおくこと。文法や文学史も出題されることがあるので、対策を怠らないこと。過去の問題を解いて名古屋大学の出題形式に慣れておくとうい。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部（前期） 5/6

＜総括＞	出題数	現代文 1 題・古文 1 題・漢文 1 題	試験時間 105 分
本文は、世の学者の儒教の経典に対する態度への意見を述べた文章である。例年通り、語の読み・現代語訳・書き下し文・内容説明・150 字の説明問題が問われたが、昨年は 1 問だった現代語訳の問題は 2 問になり、問題数は 6 問から 7 問になった。問七の 150 字で筆者の主張をまとめる問題は、世の学者を批判する内容を要領よくまとめるのが難しい。			

＜本文分析＞

大問番号	三
出典 (作者)	『考信録提要』巻上（清・崔述）
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加） 昨年は 265 字、今年は 247 字で 18 字減少
難易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
三	論説	問一	記述	やや易	語の読みの問題。「雖（いへども）」「輒（すなはち）」「敢（あへて）」は基本的な語。
		問二	記述	標準	内容説明の問題。「孫某」が磁器の名産品を偽造して暴利を得たことをおさえる。
		問三	記述	やや易	書き下し文の問題。二重否定「莫不一」と慣用句「以爲一」の用法がポイント。
		問四	記述	標準	内容説明の問題。「楊氏」が店のブランドを利用して煙草を高値で販売したことをおさえる。
		問五	記述	標準	解釈の問題。「名」と「実」の対比をとらえる。限定形「而已」と否定語「非」、「所」「能」の意味に注意。
		問六	記述	やや難	解釈の問題。「偽者」と「真」の対比をとらえる。前半の仮定条件、「果」「且」「自」「不能」の意味に注意。
		問七	記述	やや難	主旨説明（150 字）の問題。「経」を名称だけで妄信する今の学者の姿勢を批判していることに着目してまとめる。

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部（前期） 6 / 6

<学習対策>

重要語や句形を問う問題は必ず出題されるので、これらの基礎知識に習熟すること。250字を超える長文の出題が多いので、日頃から長文を数多く読むように心掛けたい。現代語訳、書き下し文、内容・理由説明の問題は、二次対策用の問題集や過去問などで訓練しておくのがよい。150字の説明問題の対策として、漢文を読んで要約する練習を心掛けるとよいだろう。